

すべての拉致被害者の早期帰国をめざして

映画上映会 in 香川

めぐみ — 引き裂かれた家族の30年 —



Abduction The Megumi Yokota Story (2006年 ダラス・アジア映画祭 最優秀ドキュメンタリー賞受賞 2006年 サンフランシスコアジア・アメリカン国際映画祭 最優秀審査員賞受賞)

A film by Patty Kim and Chris Sheridan Directed by Patty Kim and Chris Sheridan With Shigeru Yokota Sakie Yokota Teruaki Masumoto
Written and Produced by Patty Kim and Chris Sheridan Executive Producer Jane Campion Associate Producer Yuko Kawabe Story Consultant Laurie McLellan
Director of Photography / Editor Chris Sheridan Composer Shoji Kameda A safari media film in association with BBC and with the assistance of Fuji TV ©safari media 2006

© Safari media LLC 2006

入場無料
申込不要

日時 平成29年12月2日(土) 13:30~ (13:00開場)

場所 サポートホール高松 5階 54会議室 定員120名(先着)

主催 香川県、香川県議会北朝鮮日本人拉致問題早期解決促進議員連盟、政府拉致問題対策本部

※サポート高松1階市民ギャラリーにて拉致問題啓発パネル展を同時開催(9:00~15:30)

問い合わせ先:香川県健康福祉総務課 企画・総務グループ 087-832-3252

○映画「めぐみ－引き裂かれた家族の30年」のストーリー

1977年11月15日朝、いつものように学校へ出かけた、当時13歳、中学1年生の女の子が、夕方、学校からの帰宅途中に突然姿を消しました。

横田さんご一家の平和だった日々は、その瞬間から一変し、あらゆる事態を想像しながら、無事を祈り、帰ってこない娘めぐみさんを捜し続けることになりました。その実態が〈北朝鮮による拉致事件〉という途方もないものとは思えないで・・・。

それから30年－。怒りや悲しみに包まれながらも、めぐみさんのご両親はめぐみさんの生存を信じ、めぐみさんを取り戻すための果てしない闘いの日々が続いているのです。

その凛々しくも強く懸命な姿は多くの人々の共感を呼び、日本政府だけでなく、多くの国を動かすまでになりました。この映画では、その様子が克明に描かれています。

(政府 拉致問題対策本部ホームページより)

現在、横田めぐみさんが拉致されてから、40年が経過しました。

すべての拉致被害者帰還のための闘いは、今も続いています。



© Safari media LLC 2006



© Safari media LLC 2006

○「取り戻す」ためのシンボル－ブルーリボン



拉致被害者の救出を求める国民運動は、ブルーリボンと青色を運動のシンボルにしています。青色は、被害者の祖国日本と北朝鮮を隔てる「日本海の青」を、また、被害者と御家族を唯一結んでいる「青い空」をイメージしています。

(政府 拉致問題対策本部ホームページより)